

# 第37回 うつのみやこども賞だより

## 令和2年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

### 《今月選ばれた本》

## 『あの子の秘密』

村上 雅郁／作（フレーベル館）

### ～読んだ本の感想より～



令和2年11月1日

うつのみやこども賞  
Utsunomiya city library

- 誰にでも秘密がある。言われるといやな秘密もある。黒猫がいなくなつてつらいけど、友達と助け合いながら成長していく小夜子に感動した。
- ふれることで人の心の中がわかる明来と黒猫くらいにしか心を開いていない小夜子が仲良くなっていて、このあとどうなっていくのだろうとドキドキしながら読めた。
- イマジナリーフレンドについて、本で読んだことがあって気になっていたので、その話題を使った物語を読めたことが本当に嬉しかったです。
- イマジナリーフレンドのことについてはあまり知らなかったが、だれにでもありえることだと知ったので、もしそれでこまっている人が近くにいたら助けてあげたいと思った。
- 大切なものがなくなるのは本当に悲しいと思います。

### 『赤毛証明』

光丘 真理／作（くもん出版）

- みんなとちがうと不安になることがあるから、めぐの気持ちが良く分かりました。自分らしく生きようとあらためて思いました。
- 最後のページを読み終わったとき、自分らしく生きるのが一番なのかな？と思いました。
- 自分の生まれつきのものを否定されると悲しいけど、それを誇れるようになれば自信をもっていける。生まれつきのことでなやんでいる人にオススメ！。
- おかしいんじゃないの？という思いをちゃんと言葉にしているすごいなと思った。ものすごく前向きになれる本。
- 赤毛証明をとりやめさせたことがすごいと思った。

### 『氷室のなぞと秘密基地』中谷 詩子／作（国土社）

- 氷室のことをよく知らずに好奇心にまかせて掘っている場面で、すぐ行動にうつせるのはすごいなと思った。昔の人たちが寒い思いをしながら作業をしていてびっくりしたし、昔の人たちが知恵をしぼってうみだした独自の文化を時代と共に風化させてはいけないなと思った。
- 自分の思い出などに関連づけてみたり、この本のように何かを作ろうと思える楽しい本でした。
- 氷室を知らなかったので勉強になった。町の重要文化財だときいたときにとてもおどろいた。歴史も学べるおもしろい本だった。
- 読みやすい本でした。

### 『まほろばトリップ』 倉本 由布／著（アリス館）

- まわりにいる現代の人々や昔の人たちのやさしさや思いがキーワードとなって感情をゆらしてくれて、とてもおもしろかったです。
- 飛鳥時代の歴史が学べてとても勉強になった。みんなで協力して助け合う、感動したお話だった。
- タイムスリップしているときの様子が細かく書いてあり、想像できた。現実にいることの大切さ、まほとタケル、もうひとりのタケルとの友情が伝わってきた。
- 日本史に少し興味をもった。